

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	大阪教育福祉専門学校
設置者名	学校法人大阪聖徳学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
教育福祉専門課程	教育保育科 第一部昼間コース（2年制）	夜・通信	56 単位 (1,105 時間)	7 単位 (160 時間)	
	教育保育科 第一部夜間主コース（2年制）	夜・通信	57 単位 (1,120 時間)	7 単位 (160 時間)	
	教育保育科 第二部（3年制）	②夜・通信	55 単位 (1,040 時間)	6 単位 (135 時間)	
(備考) () 内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第2条（経過措置）」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を併記している					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://kyofuku-ac.jp/feature/disclosure/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪教育福祉専門学校
設置者名	学校法人大阪聖徳学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://kyofuku-ac.jp/feature/disclosure/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元衆議院議員秘書 (1979.10～2000.6) 前衆議院議員 (2012.12～2021.2) 学校法人理事長 (2022.4～)	1996.9.20～ 令和11年度 の定時評議 員会終結の 時	組織運営体制への チェック機能
非常勤	医師 (1971.4～)	2009.6.8～ 令和11年度 の定時評議 員会終結の 時	人事・法務・財務関 係等のチェック機 能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪教育福祉専門学校
設置者名	学校法人大阪聖徳学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 教育保育科第一部昼間コース (2年制)、教育保育科第一部夜間主コース (2年制)、教育保育科第二部 (3年制) 【作成に係る取組み】 本校の教育課程は、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の下、建学の精神、教育理念が適切に反映され、幼稚園教諭免許、保育士資格取得に要する教科目単位及び本校独自の教科目、その他教科目単位によって構成している。授業計画については、毎年学内会議を開催し、以下の内容について、社会の変化、保育現場の変化等が反映された教育課程になるよう教育課程編成委員会、FD委員会等の意見も踏まえて検討し、その改善案を策定している。 ・ 授業科目の設定 ・ 到達目標 ・ 授業内容 ・ 授業方法 ・ 授業スケジュール ・ 担当教員の選定 ・ 成績評価の方法・基準 ・ その他の必要事項 【公表に係る取組の概要】 1 月初旬より授業計画(シラバス)の改定を行い、3月上旬までに点検・修正を終え、3月下旬に本校ホームページに公開している。また、新年度オリエンテーションにて学生に説明を行なっている。	
授業計画書の公表方法	https://kyofuku-ac.jp/feature/disclosure/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) ・ 成績評価については、専門的知識、技能の習得をより確実なものとする、学生が緊張感をもって授業に臨むことを意図して、授業内評価を導入している。 ・ 学生の学習スキルの格差を埋めるために学生個人の学習プロセスに焦点を当て、授業における努力や関心・意欲・態度等を評価の対象とすることで学生の学ぶ意欲を促し、継続する力を育てるようにしている。 ・ 学生の理解度・到達度を総合的・多面的に確認するために、授業内において必ず複数回の確認の機会を設定し、授業全体を通じた総合的な成績評価をおこなっている。 ・ 各授業科目の評価は、授業科目の特性に合わせて、目標到達度・理解度確認の小テスト、実技チェックの他、受講態度、欠席による減点等、授業後のコメントシートの提出、レポート(ノート点検)や提出物等、実技等を総合的に判断して決定している。 ・ アクティブラーニングの導入により、知識の記憶を確認するに留まらず、受講科目や関連する事項を含めて、その場で考えたり、まとめたりする内容の課題を評価に含めるようにしている。 ・ 出席率が 2/3 以下の学生については成績評価の対象としない。 ・ 科目担当者による評価結果を元に学内成績判定会議による履修認定を実施している。	
3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) ・ 各授業科目の評価配分や実施時期、内容、方法等については、シラバス「成績評価の方法」欄に記載している。なお出席率が 2/3 以下の学生については成績評価の対象としていない。 ・ 成績評価は、科目ごとに 100 点満点評価とする。 ・ 各授業科目の評価は、「秀・優・良・可・不可」の評語によって揭示され、評語は試験の成績、平常の学習状況、出席状況等を総合して決定する。また成績の総合的かつ客観的な基準として、GPA (Grade point Average) を設定し、成績評価に対応して評点を意味する GP (Grade point) を付与する。付与された GP に単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割ることで履修科目の成績評定平均値を意味する GPA を算出する。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://kyofuku-ac.jp/feature/disclosure/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定方針は、卒業認定の方針（ディプロマ・ポリシー）の下、教育課程編成委員会、FD 委員会等の意見も踏まえて検討し、学校長が決定する。また客観的妥当性、厳格性を確保するため、以下の審査基準により単位認定部会の作成案に基づき、教職員会議の議を経て、学校長が認定する。

- (1) 学則に定める期間以上在学し、卒業に必要な単位を修得し、幼稚園教諭免許又は保育士資格を修得していること。
- (2) 幼稚園教諭 2 種免許、保育士資格の取得しようとするときは、教育職員免許法、同施行規則、児童福祉法、同施行令、同施行規則に定める教科目、単位を履修モデルに従って必要な単位を取得していること。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://kyofuku-ac.jp/feature/disclosure/>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	大阪教育福祉専門学校
設置者名	学校法人大阪聖徳学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://osaka-shotoku.ac.jp/information/
収支計算書又は損益計算書	https://osaka-shotoku.ac.jp/information/
財産目録	https://osaka-shotoku.ac.jp/information/
事業報告書	https://osaka-shotoku.ac.jp/information/
監事による監査報告（書）	https://osaka-shotoku.ac.jp/information/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

教育保育科第一部・昼間コース

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育福祉専門課程	教育保育科第一部 昼間コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	99 単位 (1,960 時間)	73 単位 (1,095 時間)	97 単位 (1,515 時間)	21 単位 (770 時間)	0 単位 (0 時間)	1 単位 (30 時間)
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
95 人		67 人	0 人	12 人	27 人	39 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校の教育課程は、建学の精神「報恩感謝」に基づく教育目標の達成と幼稚園教諭、保育士、体育指導者の養成を目的とすることから、教育職員免許法、同施行規則、児童福祉法、同施行令、同施行規則の定める教科目、単位、本校独自の教科目によって構成し、「教員養成機関指定基準」並びに「指定保育士養成施設指定基準」等に基づき、カリキュラムを作成している。授業計画（シラバス）については、教育課程委員会で協議の上、作成し、3月下旬に決定、ホームページにて公表する。 各授業計画書（シラバス）には、以下の内容を記載する。 ・ 到達目標 ・ 授業内容 ・ 授業方法 ・ 授業スケジュールや授業回数などの授業計画 ・ 成績評価の方法・基準 ・ その他の必要事項
成績評価の基準・方法

(概要) - 成績評価については、専門的知識、技能の習得をより確実なものとする、学生が緊張感をもって授業に臨むことを意図して、令和 5 年度より授業内評価を導入した。 - 学生の理解度・到達度を総合的・多面的に確認するために、授業内において必ず複数回の確認の機会を設定し、授業全体を通じた総合的な成績評価をおこなっている。 - 各授業科目の評価は、授業科目の特性に合わせて、目標到達度・理解度確認の小テスト、実技チェックの他、受講態度、欠席による減点等、授業後のコメントシートの提出、レポート(ノート点検)や提出物等、実技等を総合的に判断して決定し、シラバスの「成績評価の方法」欄に評価配分や実施の時期、内容、方法などを記載する。 - 成績評価は、科目ごとに 100 点満点評価とする。 - 各授業科目の評価は、「秀・優・良・可・不可」の評語によって掲示され、評語は試験の成績、平常の学習状況、出席状況等を総合して決定する。また成績の総合的かつ客観的な基準として、GPA (Grade point Average) を設定し、成績評価に対応して評点を意味する GP (Grade point) を付与する。付与された GP に単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割ることで履修科目の成績評定平均値を意味する GPA を算出する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 以下の審査基準により単位認定部会の作成案に基づき、教職員会議の議を経て、学校長が認定する。 (1) 本校の卒業要件 2 年以上在学し、62 単位以上修得し、幼稚園教諭免許又は保育士資格を習得していること。 (2) 幼稚園教諭 2 種免許、保育士資格を取得しようとするときは、教育職員免許法、同施行規則、児童福祉法、同施行令、同施行規則に定める教科目、単位を履修モデルに従って必要な単位を取得していること。
学修支援等
(概要) 毎月開催の学生生活支援委員会、担任担当連絡会において、学生の欠席状況や授業態度を共有し、教職員会議にて対応を討議している。担任は、必要に応じて本人と保護者に連絡を取り、状況を把握した上で指導をおこなっている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18 人 (100%)	1 人 (5.5 %)	14 人 (77.8 %)	3 人 (16.7 %)
(主な就職、業界等) 学校法人久宝文化学院 白鳩羽曳野幼稚園 他			

(就職指導内容)		
1 キャリアデザインセミナー実施 記念館ホールにおいて、幼稚園・認定こども園・保育所・福祉施設その他一般の各分野における仕事内容を正しい理解を促進するために現場の園長・経験者の先生方を招聘し実施した。実際の仕事理解を正確に把握するとともに、質疑応答や就職への不安などの除去に好評を得た。 2 就職活動の手順・手続き・注意など 活動時期・受験・内定後手続き・研修等及び、学内の面談・学修の進捗状況と法人組織と会社組織との違いや、書類作成方法などの説明を実施。 3 マナー講座の実施 社会人としての基本的なビジネスマナーを身に付ける。 4 社会人としてのメンタルヘルス研修の実施 卒業、就職を控え、社会人とりわけ対人援助職として自らの心身の健康や生活に影響を及ぼす様々な問題によるストレスに対応し、その影響を最小限のものにするためにメンタルタフネスの考え方を学ぶ。 5 就職活動後半における手順 就職内定後の書類作成や研修への参加に際しての留意点等。 6 個人面談の実施 5月～12月の間の複数回		
(主な学修成果（資格・検定等））		
1 幼稚園教諭 2 種免許状 18 人取得（100%） 2 保育士資格 18 人取得（100%）		
(備考) (任意記載事項)		

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
59 人	7 人	11.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更等のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 毎月開催の学生生活支援委員会、担任担当連絡会において、学生の欠席状況や授業態度を共有し、教職員会議にて対応を討議している。担任は、必要に応じて本人と保護者に連絡を取り、状況を把握した上で指導をおこなっている。事情によっては、奨学金担当などとも相談対応している。		

教育保育科第一部・夜間主コース

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育福祉専門課程	教育保育科第一部 夜間主コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼夜	96 単位 (1,870 時間)	34 単位 (510 時間)	60 単位 (900 時間)	12 単位 (480 時間)	0 単位 (0 時間)	1 単位 (30 時 間)
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30 人		4 人	0 人	9 人	20 人	29 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校の教育課程は、建学の精神「報恩感謝」に基づく教育目標の達成と幼稚園教諭、保育士、体育指導者の養成を目的とすることから、教育職員免許法、同施行規則、児童福祉法、同施行令、同施行規則の定める教科目、単位、本校独自の教科目によって構成し、「教員養成機関指定基準」並びに「指定保育士養成施設指定基準」等に基づき、カリキュラムを作成している。授業計画（シラバス）については、教育課程委員会で協議の上、作成し、3 月下旬に決定、ホームページにて公表する。 各授業計画書（シラバス）には、以下の内容を記載する。 ・ 到達目標 ・ 授業内容 ・ 授業方法 ・ 授業スケジュールや授業回数などの授業計画 ・ 成績評価の方法・基準 ・ その他の必要事項
成績評価の基準・方法
（概要） ・ 成績評価については、専門的知識、技能の習得をより確実なものとし、学生が緊張感をもって授業に臨むことを意図して、令和 5 年度より授業内評価を導入した。 ・ 学生の理解度・到達度を総合的・多面的に確認するために、授業内において必ず複数回の確認の機会を設定し、授業全体を通じた総合的な成績評価をおこなっている。 ・ 各授業科目の評価は、授業科目の特性に合わせて、目標到達度・理解度確認の小テスト、実技チェックの他、受講態度、欠席による減点等、授業後のコメントシートの提出、レポート（ノート点検）や提出物等、実技等を総合的に判断して決定し、シラバスの「成績評価の方法」欄に評価配分や実施の時期、内容、方法などを記載する。 ・ 成績評価は、科目ごとに 100 点満点評価とする。 ・ 各授業科目の評価は、「秀・優・良・可・不可」の評語によって揭示され、評語は試験の成績、平常の学習状況、出席状況等を総合して決定する。また成績の総合的かつ客観的な基準として、GPA（Grade point Average）を設定し、成績評価に対応して評点を意味する GP（Grade point）を付与する。付与された GP に単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割ることで履修科目の成績評定平均値を

意味する GPA を算出する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 以下の審査基準により単位認定部会の作成案に基づき、教職員会議の議を経て、学校長が認定する。 (1) 本校の卒業要件 2 年以上在学し、62 単位以上修得し、幼稚園教諭免許又は保育士資格を習得していること。 (2) 幼稚園教諭 2 種免許、保育士資格を取得しようとするときは、教育職員免許法、同施行規則、児童福祉法、同施行令、同施行規則に定める教科目、単位を履修モデルに従って必要な単位を取得していること。
学修支援等
(概要) 毎月開催の学生生活支援委員会、担任担当連絡会において、学生の欠席状況や授業態度を共有し、教職員会議にて対応を討議している。担任は、必要に応じて本人と保護者に連絡を取り、状況を把握した上で指導をおこなっている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0 人 (0 %)	0 人 (0 %)	0 人 (0 %)	0 人 (0 %)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項） 対象学年に在籍者なし			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 対象学年に在籍者なし		

教育保育科第二部

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育福祉専門課程	教育保育科第二部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	夜	96 単位 (1, 930 時間)	34 単位 (510 時間)	64 単位 (960 時間)	12 単位 (480 時間)	0 単位 (0 時間)	1 単位 (30 時 間)
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		16 人	0 人	9 人	20 人	29 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 本校の教育課程は、建学の精神「報恩感謝」に基づく教育目標の達成と幼稚園教諭、保育士、体育指導者の養成を目的とすることから、教育職員免許法、同施行規則、児童福祉法、同施行令、同施行規則の定める教科目、単位、本校独自の教科目によって構成し、「教員養成機関指定基準」並びに「指定保育士養成施設指定基準」等に基づき、カリキュラムを作成している。授業計画（シラバス）については、教育課程委員会で協議の上、作成し、3 月下旬に決定、ホームページにて公表する。 各授業計画書（シラバス）には、以下の内容を記載する。 ・ 到達目標 ・ 授業内容 ・ 授業方法 ・ 授業スケジュールや授業回数などの授業計画 ・ 成績評価の方法・基準 ・ その他の必要事項	
成績評価の基準・方法	
（概要） ・ 成績評価については、専門的知識、技能の習得をより確実なものとし、学生が緊張感をもって授業に臨むことを意図して、令和 5 年度より授業内評価を導入した。 ・ 学生の理解度・到達度を総合的・多面的に確認するために、授業内において必ず複数回の確認の機会を設定し、授業全体を通じた総合的な成績評価をおこなっている。 ・ 各授業科目の評価は、授業科目の特性に合わせて、目標到達度・理解度確認の小テスト、実技チェックの他、受講態度、欠席による減点等、授業後のコメントシートの提出、レポート（ノート点検）や提出物等、実技等を総合的に判断して決定し、シラバスの「成績評価の方法」欄に評価配分や実施の時期、内容、方法などを記載する。 ・ 成績評価は、科目ごとに 100 点満点評価とする。 ・ 各授業科目の評価は、「秀・優・良・可・不可」の評語によって掲示され、評語は試験の成績、平常の学習状況、出席状況等を総合して決定する。また成績の総合的かつ客観的な基準として、GPA（Grade point Average）を設定し、成績評価に対応して評点を意味する GP（Grade point）を付与する。付与された GP に単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割ることで履修科目の成績評定平均値を意味する GPA を算出する。	

卒業・進級の認定基準
(概要) 以下の審査基準により単位認定部会の作成案に基づき、教職員会議の議を経て、学校長が認定する。 (1) 本校の卒業要件 3 年以上在学し、62 単位以上修得し、幼稚園教諭免許又は保育士資格を習得していること。 (2) 幼稚園教諭 2 種免許、保育士資格を取得しようとするときは、教育職員免許法、同施行規則、児童福祉法、同施行令、同施行規則に定める教科目、単位を履修モデルに従って必要な単位を取得していること。
学修支援等
(概要) 毎月開催の学生生活支援委員会、担任担当連絡会において、学生の欠席状況や授業態度を共有し、教職員会議にて対応を討議している。担任は、必要に応じて本人と保護者に連絡を取り、状況を把握した上で指導をおこなっている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16 人 (100%)	0 人 (0 %)	15 人 (93.8 %)	1 人 (6.2 %)
(主な就職、業界等) 学校法人大阪聖徳学園 勝山愛和幼稚園 他			
(就職指導内容) 1 キャリアデザインセミナー実施 記念館ホールにおいて、幼稚園・認定こども園・保育所・福祉施設その他一般の各分野における仕事内容を正しい理解を促進するために現場の園長・経験者の先生方を招聘し実施した。実際の仕事理解を正確に把握するとともに、質疑応答や就職への不安などの除去に好評を得た。 2 就職活動の手順・手続き・注意など 活動時期・受験・内定後手続き・研修等及び、学内の面談・学修の進捗状況と法人組織と会社組織との違いや、書類作成方法などの説明を実施。 3 マナー講座の実施 社会人としての基本的なビジネスマナーを身に付ける。 4 社会人としてのメンタルヘルス研修の実施 卒業、就職を控え、社会人とりわけ対人援助職として自らの心身の健康や生活に影響を及ぼす様々な問題によるストレスに対応し、その影響を最小限のものにするためにメンタルタフネスの考え方を学ぶ。 5 就職活動後半における手順 就職内定後の書類作成や研修への参加に際しての留意点等。 6 個人面談の実施 5 月～12 月の間の複数回			

(主な学修成果（資格・検定等）） 1 幼稚園教諭2種免許状 16人取得（100%） 2 保育士資格 16人取得（100%）		
(備考) (任意記載事項)		

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
35 人	2 人	5.7 %
(中途退学の主な理由) 進路変更等のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 毎月開催の学生生活支援委員会、担任担当連絡会において、学生の欠席状況や授業態度を共有し、教職員会議にて対応を討議している。担任は、必要に応じて本人と保護者に連絡を取り、状況を把握した上で指導をおこなっている。事情によっては、奨学金担当などとも相談対応している。		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
教育保育 科第一部 昼間コース	250,000 円	600,000 円	180,000 円	行事参加費・教科書代等必要
教育保育 科第一部 夜間主コース	250,000 円	600,000 円	180,000 円	行事参加費・教科書代等必要
教育保育 科第二部	250,000 円	360,000 円	70,000 円	行事参加費・教科書代等必要
	円	円	円	
修学支援(任意記載事項)				
聖徳学園奨学金制度(第Ⅰ区分～第Ⅳ区分)審査評価によって採用。 早期受験及び本校奨学金制度・紹介型学費減免制度 入学後の奨学生制度(成績評価の結果で給付)				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://kyofuku-ac.jp/feature/disclosure/		
第三者評価の基本方針(実施方法・体制) 各点検項目を通して、教育活動の充実を図り、保育・福祉現場のニーズに対応できる専門知識・技術の修得と教育環境の整備を行う。又教職員の資質向上を図るための各研修などへの参加と、学生への授業の取り組みの改善を図る。これらを通して学生の就業意欲を高め充実した学校生活と卒業生への支援体制に取り組む。学校関係者評価内容をホームページで公表をする。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
地域認定こども園・園長代理補佐	2023.4.1～2028.3.31 (任期更新)	幼児教育関係(認定こども園)
地域教員養成校・元職員	2025.4.1～2028.3.31 (任期更新)	教育関係者
同窓会代表	2023.4.1～2028.3.31 (任期更新)	同窓会関係者
教育保育科第一部 保護者	2026.4.1～2027.3.31 (新規就任)	保護者代表
第三者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://kyofuku-ac.jp/feature/disclosure/		

(備考)
第三者評価の代わりに学校関係者評価を実施している。

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://kyofuku-ac.jp/feature/disclosure/

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H127310000120
学校名（〇〇大学 等）	大阪教育福祉専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 大阪聖徳学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		24人	23人	24人
内 訳	第Ⅰ区分	14人	14人	
	第Ⅱ区分	－人	－人	
	第Ⅲ区分	－人	－人	
	第Ⅳ区分	－人	－人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				24人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	一人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	一人	一人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	一人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	一人
3月以上の停学	0人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	0人	一人	一人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	一人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。